

# 環境変化

- 藻場減少
- 干潟の減少
- サングの減少
- 魚種の変化
- その他

海藻の減少  
全国的に魚種変化  
台風の後、量が一気に増える

北海道  
2~3度水温高い(北海道)  
水温2~3度上昇(北海道)  
自然貝の発生で過密を防ぐため多く採る(北海道 ホタテ)  
昼と夜が逆転(北海道)  
工夫で生残良くなった(北海道)

春のサクラダイ×(水温の変化)ブリが今も獲れる(水温の変化)(長崎県)  
サクラダイが全く獲れなかった(長崎県)  
アサリ、なくなった。埋め立て、自然の影響(福岡県 博多湾干潟)  
海水温が高くて今期のモズクが不作(沖縄県)  
ブリがまだ獲れる(長崎県)  
博多、アサリメインの島だった。人的？埋め立てで砂を持っていかれた。クルーズ船の波で砂が減っている(福岡県)  
高水温における魚種の変化、時季のものが獲れなくなった(山口県)

豪雨災害による底質の変化に伴う漁場の減少(山口県)  
赤潮。平成22年から海水温上昇が原因(鹿児島県)  
赤潮！(H19~)→藻場の減少(鹿児島県)  
昔は魚がたくさんいたという過去の武勇伝を年寄りに聞かされること(鹿児島県)  
海底の悪化で海底耕運・清掃(佐賀県)  
赤潮対策、魚資源回復のため、藻場造成(鹿児島県)  
ウニの駆除(長崎県)

北北北北北(石川県)  
サルパサルパサルパ(石川県)  
河口付近に砂がたまる(台風の後)(福井県)  
サルパの増加による操業の妨げ→分解促進の試み(山形県)  
漁具、操業の改善(富山県)

コウナゴ、今期ゼロ(福島県)  
昨年までイカナゴ大漁、今期ゼロ。海水温2度上昇(3~4月)(福島県)  
イカの回遊なし、アブラツノザメもない→しおが高くなったから(青森県 一本釣り)  
アブラツノザメ・イカ来遊しなくなった(青森県)  
イカ回遊なくなった(青森県)  
主力魚種のコウナゴがないため、代替の漁法・魚種がかたよってしまう(福島県)  
3~4月水温上昇が原因(福島県)

貝毒被害による死滅(岩手県)  
干潟なくなって岩盤(宮城県 アサリ・ホッキ)  
砂地がなくなって岩盤 浸食された(宮城県 のり・あさり養殖)  
魚価が安い(福島県)  
海苔の高水温耐性種の試験栽培(宮城県)  
主力魚種のコウナゴ(イカナゴ)の各浜と県の調査強化(福島県)  
担い手の育成(福島県)  
ウニを移植(岩手県)

海の流れは変わってない(宮崎県)  
火山灰が海に沈んだ。海藻生えなくなった、3年くらい(宮崎県磯たて網)

タチウオの水揚げ減少(大分県)  
高水温や海の栄養不足でイカナゴなどが減少している(兵庫県)  
藻場の減少(岡山県)  
海水温の上昇(岡山県)  
魚による食害(徳島県)  
水温が下がってから種苗を移設する(徳島県)

黒潮大蛇行が変わった。一本釣り下に落とせない。キンメもいなくなった(静岡県 キンメ一本釣り)  
黒潮大蛇行(静岡県 キンメ一本釣り)  
内湾の外洋化？(愛知県)  
ウミエラが大量にできて、魚が減り、特に戦車こぎに大量にかかって困っています(愛媛県)

下水処理能力過剰(愛知県)  
長良川河口堰の排水(愛知県)  
河川からの泥水の流入？(静岡県)  
干潟造成事業の中止(三重県)  
下水処理場による栄養塩管理運転を要請(愛知県)  
他地区からの移植(静岡県)

## 東シナ海

